

用語の説明

あ行

用語	解説
アカウントビリティ	社会の了解や合意を得るために、業務や研究活動の内容について対外的に説明する責任のこと（説明責任）
アセットマネジメント	中長期的な収支バランスの下で、適切な維持更新を含む事業全体の資産管理の最適化を行う手法
暗きょ	地下に設けられた下水路（下水管）。円形管、卵形、長方形、馬蹄形等がある。
一般会計からの繰入	教育や福祉、土木など基本的な行政運営の経費をまかなう会計（一般会計）から、資金の融通を受けること。下水道事業に関する繰入については、自治省通知により雨水処理や高度処理に関する経費など基準が定められている。
いろは呑龍トンネル	京都府が整備する浸水対策用の地下トンネル。京都市、向日市、長岡京市にまたがる1,421haの区域の浸水対策として、雨水が流入して増水した川から水を取り込んで貯留するための延長9.2km、容量約200,000立方メートルの地下トンネル
インバータ制御	モーターそのものの回転速度をインバータ（周波数と電圧の大きさを自在に変える装置）によって調整すること。これにより省エネ運転が可能となる。
インフラ	産業や社会生活の基盤となる施設。英語のインフラストラクチャーの略。電気、石油、ガスといったエネルギー関連のほか、学校や病院など生活に必要な社会資本も含まれる。
インレットベーン	送風機の吸込側に取り付けるくさび状のベーン（翼）で、その角度を変えることにより、送風機（回転数一定）の風量制御を行う。
雨水貯留施設	降った雨を一時的に貯留し、下流の流出量を減少させる施設。公園貯留、校庭貯留施設や雨水調整池、雨水貯留管、雨水貯留タンク等さまざまなものがある。
雨水浸透施設	雨水を地下に浸透させることにより河川への雨水の流出を抑える施設、雨水貯留施設と併せて雨水貯留浸透施設と総称することもある。
雨水貯留タンク（マイクロ呑龍）	屋根に降った雨を、雨どいに取り付けた取水器（集水器）により集水し、貯めるためのタンク（貯水槽）。京都府では雨水タンクの購入費に対する補助制度を設けており、愛称を「マイクロ呑龍」と名付けている。
雨水排除施設	降水により発生した表面水を収集し、河川や海に放流するための施設。雨水ます、側溝、雨水管きょ、ポンプ施設等がある。
雨水吐き室	合流式下水道において、雨天時に下流の管きょの流下能力を超える下水の上澄み部分を分水して、河川などの水域に放流するための雨水越流せきなどの施設
雨天時侵入水	雨天時に下水管きょ内に、下水以外の雨水、地下水など、管きょの継ぎ手部、マンホールの蓋穴、ますなどから侵入してくる水
エアロゾル	気体中に固体、液体の微細粒子が分散したもの。煙、チリ、霧、雲、霞等がその例である。
SS（浮遊物質）	水中に溶解せず懸濁している物質をいい、コロイドの様な小さな粒子から比較的大きな粒子まで種々の形態で存在する。水質汚濁の重要な指標の一つ。水質規制項目
塩化ビニル管（塩ビ管）	塩化ビニル重合体を主原料とし、押出し、射出などの方法によって成形された管。軽量で施工性、耐久性、耐熱、アルカリ性に優れている。現在では中小口径の下水管で主流となっている。
オイルボール	動植物油などを主成分とする白色の固形物
汚水処理施設	下水道・浄化槽など、し尿と雑排水を一緒に処理できる施設の総称
汚水処理人口普及率	汚水処理施設を使用できる人の行政人口に対する割合

あ行～続き

用語	解説
オゾン処理法	オゾンの強い酸化力により、下水処理水中の有機物質や化学物質の分解除去、脱色・脱臭、消毒などの効果を得る処理方法
汚泥有効利用率	下水汚泥の総発生量に対するリサイクルされている下水汚泥量の割合
オンサイト利用	製造したものをその場で利用すること
温室効果ガス	大気を構成する気体であって、赤外線を吸収し再放出する気体。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六フッ化硫黄、三フッ化窒素の7物質が温室効果ガスとして削減の対象とされている。

か行

用語	解説
掻き寄せ機	沈砂池、沈澱池または重力濃縮タンクなどの沈殿物を砂だまり、汚泥ホップおよび引抜き口にかき寄せる機械設備
ガス発電	汚泥処理過程で発生する消化ガス（メタンガス）を燃料として発電を行うこと
可とう性・伸縮性部材	配管に曲げや伸縮の力が加かった時、たわみなどの変形によってそれを吸収することができる部分品
河道拡幅	川の幅を広げる事で、洪水が流れる面積を広くし、より多くの洪水が流せるようにすること
管きよ（渠）	下水を収集し、排除するための施設で、污水管渠、合流管渠、雨水管渠、水路の総称
環境基準	国や地方公共団体が公害防止対策を進めるために設定する望ましい環境の質のレベル
環境基準点	環境基準に関して類型指定を行う水域を代表する地点で、環境基準の維持達成状況を把握するための測定点。定期的に水質が測定されている。
管更生	老朽化した管きよを修繕や改築によって機能を回復させること
管路内設置型熱回収技術	下水熱を利用するために、下水管路内に熱回収施設を設置する技術。らせん方式、熱交換マット方式、管路内ヒートパイプ方式等がある。
起債の償還費	地方公共団体が資金調達のために借り入れる債務の償還費で、元金と利息の合計額
機能診断技術	施設の機能低下や劣化の状況を的確に把握し、修繕や改築の要否、今後の劣化予測を客観的に評価するための技術 管内カメラ調査、電磁波レーダーによる空洞調査、ポンプの潤滑油診断調査等がある。
急速ろ過法	砂、アンスラサイト、ガーネットなどのろ材からなるろ層にろ過速度 200～300m/日で二次処理水や凝集沈殿水を通し、ろ材に吸着させることで水中の浮遊物を除去する方法
供用開始	下水道の供用を開始すること。公共下水道管理者は、処理区域等所定の事項を公示し、関連図書に住民の縦覧に供さなくてはならない。
凝集剤併用型循環式硝化脱窒法	窒素・リンを除去するための高度処理方式の一つ 循環式硝化脱窒法の生物反応槽の最後に凝集剤（ポリ塩化アルミニウム：PAC）を添加し、リンを沈殿除去する方法
凝集剤併用型ステップ流入式多段硝化脱窒法	窒素・リンを除去するための高度処理方式の一つ 凝集剤併用型ステップ流入式多段硝化脱窒法の生物反応槽の最後に凝集剤（ポリ塩化アルミニウム：PAC）を添加し、リンを沈殿除去する方法

か行～続き

用語	解説
共助・自助	「共助」とは、近隣が互いに助け合って地域を守ること、または備えること 「自助」とは、自ら(家族も含む)の命は自らが守ること、または備えること
漁業集落排水	漁業集落の衛生環境の向上、港湾及び周辺水域の水質保全に寄与するため、漁業集落におけるし尿、生活雑排水等の汚水、汚泥又は雨水を処理する施設
汲み取り（便所）	家庭などで発生したし尿を便槽に貯留しておき、廃棄や処理時には人力やバキューム車で汲み上げる方式の便所。水洗便所との対比で用いられる。
経費回収率	$\text{経費回収率（\%）} = \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}}$ $\text{汚水処理原価（円/m}^3\text{）} = \frac{\text{汚水処理費}}{\text{有収水量}}$
激甚災害	地震や風雨などによる著しい災害のうち、被災地域や被災者に助成や財政援助を特に必要とするもの。激甚災害法(1962年成立)に基づいて政令で指定される。
下水	生活もしくは事業に起因し、もしくは付随する汚水又は雨水
下水汚泥	下水処理の工程から発生する泥状物質
下水道使用料	下水道の維持管理費等の経費に充てるため、下水道管理者が条例に基づき使用者から徴収する使用料。水量や水質に応じて徴収される。
下水熱利用	下水の水温は一年を通して比較的安定しており、大気のと比べて夏は低く、冬は高い特徴を有している。このエネルギー熱（下水熱）を冷暖房や給湯等に利用すること
嫌気好気法	高度処理方式の一つ、活性汚泥法の反応タンクの一部に嫌気部分（気体状酸素及び溶存酸素が存在しない部分）を設けることにより、りん除去を行う方法
嫌気無酸素好気法	高度処理方式の一つ、反応タンクを嫌気タンク、無酸素タンク、好気タンクの順に配置し、りんと窒素を除去する処理法
減容化	脱水、消化、焼却処理等により汚泥の容積を減少させること。これにより汚泥処分量の減少、汚泥処分費の削減に繋がる。
公共下水道	市街地における下水を排除し、又は処理するために市町村が管理する下水道で終末処理場を有するもの又は流域下水道に接続するもの。生活排水の他、産業排水や雨水も対象としている。
公共用水域	水質汚濁防止法で「河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域、およびこれに接続する公共溝きよ、かんがい用水路、その他公共の用に供される水路」と規定。
公的助成	公的機関が行政目的を達成するために企業や個人に対して行う金銭給付
高度処理	窒素やりんといった富栄養化の原因物質等を除去する処理方式
合流式（下水道）	汚水と雨水を一本の管に集めて処理する下水道。昭和45年以前は合流式が主流。これに対して、汚水と雨水を別々の管で集め、汚水のみを処理場に導き処理する下水道を分流式下水道という。
固形燃料	可燃物に加工を加えて、より扱い易くした固形の燃料
固形物回収率	汚泥の濃縮や脱水などにおいて、投入された汚泥固形物量に対する濃縮汚泥や脱水汚泥として得られた汚泥固形物量の割合
個別処理	浄化槽による汚水処理のこと

か行～続き

用語	解説
コミュニティプラント	新規に造成される団地や、既存の集落等、定住地域を中心にし尿や生活雑排水を公共用水域に放流できるようにする污水处理施設。コミュニティプラントは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第八条1項で定められたし尿処理施設で、「浄化槽法」第二条1項で定められた浄化槽以外のものをいう。
コンポスト化（肥料化）	下水汚泥などの有機物を微生物により発酵させ堆肥化することであり、肥料や土壌改良材として農業用に再生利用される。

さ行

用語	解説
再資源化	不要物を資材又は原材料、燃料として再利用することができる状態にする行為
再生可能エネルギー	法律（※）で「エネルギー源として永続的に利用することができる」と認められるものとして、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスが規定されている。再生可能エネルギーは、資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しない優れたエネルギーである。 （※）エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律
再生水	高度処理等によって、種々の再利用に適するようになった下水
サテライト処理	通常の下処理場とは異なる位置で汚水を処理するもの。下水道管路を流れる汚水の一部を取水し、浄化処理して再利用水を生成する。
酸素活性汚泥法	活性汚泥法の一つで、空気の代わりに純酸素あるいは高濃度の酸素を用いてばっ（曝）気する方法
CSO対策	合流式下水道からの越流水対策。CSO（合流式下水道越流水）とは、合流式下水道で、雨天時に遮集容量を越え未処理のまま雨水吐きやポンプ場から公共用水域へ放流される合流下水をいう。
COD（化学的酸素要求量）	水中の被酸化性物質が一定条件のもとで、酸化剤によって酸化されるのに要する酸素量のこと。水の汚濁状態（主に海域）を示す指標の一つである。
自然負荷	人間活動の影響をあまり受けていない自然の働きによる負荷で、降雨による山林からの窒素、リン等の流出などがある。
市町村設置型浄化槽	市町村が設置・管理を行い、個人から負担金と使用料を徴収する浄化槽
し尿	人間の排泄物。大便と小便
し尿処理場	くみ（汲）取りし尿や浄化槽引抜き汚泥を収集して、浄化処理する施設
社会資本整備審議会答申	「新しい時代の下水道政策のあり方について〔答申〕」（平成27年2月、社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会河川分科会）のこと
JARUS（ジャルス）	JARUSは一般社団法人地域環境資源センターの略称であり、同法人は農業集落排水に関する技術開発等を行っている。JARUS-〇〇型は同法人が開発した農業集落排水処理施設の型式
JARUS-XII ₆ 型	回分式活性汚泥方式（脱窒、COD除去型）、一つの反応槽（回分槽）の中で処理操作（流入、攪拌、ばっ（曝）気攪拌、沈殿、上澄水排出、汚泥の引抜き等）を時間的に区分しながら進行させる処理方式
JARUS-XIV型	連続流入間欠ばっ（曝）気方式（脱窒型）である。ばっ（曝）気を間欠的に行い、嫌気・好気処理を繰り返すことにより、有機物及び窒素の除去を行う処理方式

さ行～続き

用語	解説
JARUS-XIV _G 型	連続流入間欠ばっ（曝）気方式（脱窒、COD 除去型）である。JARUS - XIV 型の特徴を生かしつつ、建設コストの縮減を目指し、①ばっ（曝）気槽の小型化 ②ばっ（曝）気攪拌装置の見直し等を行い、窒素の除去ができる污水处理施設として開発された処理方式
JARUS-F _M 型	膜分離活性汚泥方式（脱窒、脱リン、COD 除去型）であり、BOD、SS、COD の高度処理と併せて、窒素及びリンの除去ができる污水处理施設。硝化液循環方式により、窒素除去を行い、硝化槽に鉄溶液を注入することにより、汚水中のリンの除去を行っている。また、硝化槽内に設置している浸漬型膜分離装置によって固液分離を行うことにより、高度処理を安定的に行なっている。
JARUS-ODH 型	オキシデーショondiッチ方式（脱窒、脱リン型）、流量調整機能を有するとともに循環水路形状のオキシデーショondiッチ槽で汚水と活性汚泥を攪拌混合させながら污水处理を行う。ばっ（曝）気攪拌装置の間欠運転により、有機物及び窒素の除去を行う処理方式
シミュレーション	システムや現象をモデル化し、電子計算機などを使って仮想的に実験すること。実体による実験が不可能であったり、危険を伴ったり、著しく費用がかかったりする場合に行われる。
集合処理	公共下水道、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、林業集落排水施設による污水处理のこと
主ポンプ	下水を揚水する目的のポンプのこと。主に処理場の沈砂池施設の後に設置し、水処理施設へ揚水する。
使用料単価	有収水量 1m ³ 当たり、どれくらい収入を得ているかを示す数値 使用料単価（円/m ³ ） = $\frac{\text{料金収入}}{\text{有収水量}}$
消化ガス	嫌気性（気体状酸素、溶存酸素が存在しない状態）消化タンクで下水汚泥中の有機物が微生物により代謝分解され発生するガス
浄化槽	し尿及び生活雑排水（工場廃水、雨水その他の特殊な排水を除く。）を処理し、公共下水道以外に放流するための施設。「合併浄化槽」ということもある。
処理水	下水処理場において汚水を水と汚泥に分離し、浄化した水
焼却施設	脱水ケーキ、廃棄物等の減容化、安定化を図るため焼却処理を行う施設で、焼却炉、空気予熱器、熱交換器、集じん装置、排煙処理塔などによるシステムで構成される。
焼却炉	脱水ケーキ、廃棄物等の減容化、安定化を図るため焼却処理を行う設備
初沈 （最初沈澱池の略）	下水の一次処理、および生物処理のための予備処理で、有機物を主体とする比重の大きい浮遊固形物分を重力沈降する沈澱池
修景用水	人が水に触れないことを前提として、水辺の修景を楽しむために、池や小川などに流される水、噴水などに利用される水
新下水道ビジョン	下水道の使命、長期ビジョンと各主体の役割を示した「下水道の使命と長期ビジョン」と、長期ビジョンを実現するために今後 10 年程度の目標及び具体的な施策を示した「下水道長期ビジョン実現に向けた中期計画」を掲げるもの（平成 26 年 7 月、下水道政策研究委員会）
親水用水	人が水に接触することを前提として、水に触れて楽しむためにせせらぎ等に流される水
進相コンデンサ	電動機などの力率を改善し、電力の有効利用を図るためのもので、電流の位相を進ませて、無効電力を少なくする作用をする静電蓄電器をいう。

さ行～続き

用語	解説
浸透マス	雨水ますの底部に穴を開け、その周囲に砂利を敷き並べ、そこから雨水を地下に浸透させるもの
水素ステーション	燃料電池車に水素を供給するための施設。水素を輸送して貯蔵するオフサイト型と、都市ガスを改質して、水素をその場で製造するオンサイト型があり、水素製造装置(オンサイト型の場合)、貯蔵タンク、圧縮装置、注入装置から構成される。
水素生成	汚泥処理過程で発生する消化ガス(メタンガス)を原料として水素を生成すること
スカム	沈殿池、重力濃縮タンク、消化タンク等の水面に発生するもので、繊維、毛髪、ごみなどが複雑にからまったものと、油脂類を主成分とし、そのまわりに比較的小さな浮遊物が付着して成長したものと、更には両形態のものが混ざりあったもの
スキーム	「枠組みをもった計画」といった意味のギリシア語を語源とする言葉
スケールメリット	規模を大きくすることによって得られる効果や利益。規模を拡大すると、資材の大量購入、維持管理の効率化などにより単価あたりのコストが下がり、全体のコストが下がる。
ステップ流入式多段硝化脱窒法	窒素除去を目的とした高度処理方式の一つ
ストック	国・自治体などの公的機関によって整備された道路・港湾・上下水道・公園などの蓄積量
砂ろ過	砂をろ材としたろ過法で、下水の二次処理水などに残留する比較的低濃度の浮遊物を分離除去するための処理法
ストックマネジメント	下水道事業の役割を踏まえ、持続可能な下水道事業の実施を図るため、明確な目標を定め、膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理することをいう。
終沈 (最終沈殿池の略)	生物処理により発生する汚泥と処理水を重力沈降により分離する沈殿池
(浄化槽の)清掃	浄化槽法第10条第1項に規定された清掃。浄化槽の機能維持のため、浄化槽に溜まった汚泥を抜き取り、機械を洗浄するものであり、毎年1回以上実施する必要がある。
性能発注	民間事業者に対して施設管理に一定の性能(パフォーマンス)の確保を条件として課しつつ、運転方法等の詳細については民間に任せる発注方式
生物反応槽	活性汚泥法の中心となる施設。活性汚泥が下水中の有機物を吸着、摂取、分解するタンク
総量規制	1978年の水質汚濁防止法および瀬戸内海環境保全特別措置法の改正により導入されたもので、従来の排出水の汚濁濃度規制に対し、(濃度×特定排出水量で求められる)汚濁総量により規制する方式。化学的酸素要求量が指定物質として定められており、業種や特定施設の設置時期により適用濃度が異なる。

た行

用語	解説
耐震化	地震にあっても施設が機能を維持できるよう対策すること
耐水化	豪雨時に河川からの溢水等により施設が水没して機能不全に陥ることのないよう、発生する浸水状況を想定し、止水板の設置や施設の設置高さの見直し、電気室等の耐水扉を設置する対策
耐用年数	部品や施設などが適切な管理にもかかわらず、その使用目的を達することができなくなるまでの年数
脱水汚泥	固形物として取り扱うことができる程度まで脱水された汚泥のこと
単独浄化槽	し尿のみを処理する施設。平成 13 年 4 月 1 日以降は原則として新設禁止。「みなし浄化槽」ということもある。
治水	氾濫などの水害を防ぐため、川幅の拡幅、堤防の築造、放水路の整備、ダムの建設、遊水池の設定などの手法により水を統制すること
地方公営企業会計の適用	地方公営企業法の財務規定等の適用を行い、建設に係る経理と管理運営に係る経理の分離、発生主義の経理による期間損益計算の導入や複式簿記を採用すること。これにより、事業の経営状況や財政状況を明確化することができる。
地方債残高	地方債とは、地方公共団体が発行する公債であり、財政上必要とする資金を外部から調達することによって負担する債務で、「一会計年度を超えて行う借入れ」のこと。地方債残高は、将来の債務残高であり、財政運営では適正な規模にすることが重要
長寿命化	施設の一部を補修あるいは部分取り替え等により既存ストックを活用し、耐用年数の延伸を図ること
超微細気泡装置	おおよそ 50 μ m 以下の微細な気泡を発生させる装置で、酸素の溶解効率がいいことからブロー（送風機）の電力消費量を削減する効果が期待されている。
沈砂機械スクリーン設備	沈砂池を構成するスクリーンのうち、機械式かき揚げ装置を有するもの
沈砂池設備	ポンプの摩耗、処理施設内での砂の堆積を防ぐため、一般に、ポンプ場のポンプ前段に設け下水の流速を緩めて砂等を沈降させる池
継ぎ手	配管のように長さを必要とする場合に、それらを継ぎ合わせる部位、装置などをいう。
T-N（全窒素）	無機性窒素および有機性窒素の総量。無規制窒素とは、アンモニア性窒素・亜硝酸窒素および硝酸性窒素を指し、有機性窒素とは、たんぱく質をはじめとする有機化合物中の窒素を指す。窒素はリンとともに富栄養化の原因物質とされ、窒素除去が必要な場合が多くなっている。
T-P（全リン）	水中のリン化合物の総量をそのリンの量で表したもの
DBO（設計・施工・運営一括発注方式）	設計、建設及び運営を民間に一括して発注する方式
陶管	粘土を主成分材料として焼成した管で、耐酸、耐アルカリ性に優れ、摩耗にも強く、異型管をつくりやすいなど様々な長所を有しているが、衝撃に弱く、塩化ビニル管より割高なため、最近ではあまり使われない。
当面個別処理区域	平成 32 年度までに汚水処理施設の整備が難しい場合、当面、浄化槽を整備し、将来、浄化槽の設置状況を考慮して、再度、個別処理か集合処理を検討する区域
都市型水害	都市特有の水害を言い、その特徴は次の 3 つ。①都市の地表がアスファルトなどに覆われていることによる「流域の保水・遊水機能の低下」、②地下利用など「土地利用の高度化」による被害増大、③ヒートアイランド現象が原因とされる集中豪雨の発生とその激化・頻度増加
トータルコスト	耐用年数を考慮した建設費と維持管理費の総費用

た行～続き

用語	解説
土地区画整理事業	道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業
取付管	汚水ますまたは雨水ますと下水道本管を接続する管きよ

な行

用語	解説
内水ハザードマップ	自治体において作成された内水による浸水に関する情報、避難に関する情報を掲載した地図
生汚泥	最初沈澱池から引き抜いたばかりで、汚泥処理の過程をまだ経ていない汚泥。含水率 98～99%程度で処理水量の約 1～2%発生する。
二次災害	ある災害が起こった後に、それがもとになって起こる別の災害
日本下水道事業団	日本下水道事業団法に基づき設立された下水道専門の地方共同法人。地方公共団体等の要請に基づき、下水道の根幹的施設の建設及び維持管理を行い、下水道に関する技術的援助を行うとともに、下水道技術者の養成並びに下水道に関する技術開発・実用化を図ること等により、下水道の整備を促進し、生活環境の改善と公共用水域の水質の保全に寄与することを目的とする。
熱回収	焼却炉からの排ガスの持つ顕熱、ボイラドラムブロー水の持つ顕熱等を廃熱ボイラ、熱交換器等を用いて熱エネルギーとして利用するために回収すること。
熱交換器	ある流体から隔壁を通して他の流体に熱を伝える装置
熱交換マット	管路内設置型熱回収技術の一つで、管きよの底部に熱交換マットを敷設し、マット中のチューブに不凍液等を通して下水との熱交換を行う方式
燃料電池	化学反応によって電気を発生させる電池の一種であり、水の電気分解とは逆の原理で、バイオガスから分離した水素と空気中の酸素の化学反応から生じる電子を直流電流として取り出すもの
農業集落排水	農業用排水の水質保全に寄与するため、農業集落におけるし尿、生活雑排水等の汚水、汚泥又は雨水を処理する施設
濃縮汚泥	水処理で発生した低濃度の汚泥を重力濃縮、遠心濃縮などの方法で含水率を下げ、固形物濃度を高めたもの

は行

用語	解説
灰アルカリ抽出法	リン回収技術の一つで、焼却灰に水酸化ナトリウム溶液を加え、溶出したリン酸イオンに水酸化カルシウムを加え反応させることにより、リン酸カルシウムとして回収する方法
バイオマス	化石燃料を除く、動植物に由来する有機物である資源をいう。
排水設備	下水を公共下水道に流出させるために必要な配水管、その他の排水施設で、土地、建物などの所有者および管理者が設置するもの
ばっ（曝）気（エアレーション）	下水処理で、微生物が有機物を分解するのに必要な酸素を供給するために、空気を吹き込んだり攪拌（かくはん）したりすること

は行～続き

用語	解説
ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したものである。予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報が既存の地図上に図示されている。 ハザードマップを利用することにより、災害発生時に住民などは迅速・的確に避難を行うことができ、また二次災害発生予想箇所を避けることができるため、災害による被害の低減にあたり非常に有効である。
HAP法	リン回収を目的とする高度処理方式の一つ
反応タンク	下水中の有機物、窒素などを生物学的に処理するための施設
BOD（生物化学的酸素要求量）	溶存酸素のもとで、有機物が生物学的に分解され安定化するために要する酸素量であり、水の汚濁状態（主に河川）を示す指標の一つである。
PFI	プライベートファイナンシャルイニシアティブの略。民間の調達した資金により、設計、建設及び運営を民間が一体的に実施する方式
PFI（公共施設等運営権（コンセッション）方式）	民間事業者に運営権を設定し、運営権によって事業者は利用者から利用料金を徴収し、利用料金によって民間事業者が事業を運営する方式
BCP（事業継続計画）	ヒト、モノ（資機材、燃料等）、情報、ライフライン等の資源が相当程度の制約を受けた場合を想定して、下水道機能の継続、早期回復を図るための計画。非常時対応計画、事前対策計画、訓練・維持改善計画等から構成される。
B-DASHプロジェクト	国土交通省で実施している下水道革新的技術実証事業。新技術の研究開発及び実用化を加速し、下水道事業におけるコスト縮減や再生可能エネルギー創出等の実現を目指している。
PDCAサイクル	(1) 業務の計画 (plan) を立て、(2) 計画に基づいて業務を実行 (do) し、(3) 実行した業務を評価 (check) し、(4) 改善 (act) が必要な部分はないか検討し、次の計画策定に役立てる業務管理手法のこと
ヒートアイランド現象	都市では高密度のエネルギーが消費され、また、地表の大部分がコンクリートやアスファルト等で覆われているため水分の蒸発による気温の低下が妨げられ、郊外に比べ気温が高くなっている。この現象は、等温線を描くと都心部を中心とした「島」のように見えるため、ヒートアイランド現象と呼ばれている。
ヒートポンプ	機械的エネルギーを使うことによって、低温の熱源から熱を吸収して高温の熱源に熱を供給する装置
PPP	パブリックプライベートパートナーシップの略。官と民がパートナーを組んで行う事業のこと。従来、地方自治体が公営で行ってきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者任せの民間委託などを含む手法
標準活性汚泥法	活性汚泥と呼ばれる微生物の集合体を用いた下水の生物学的処理法。下水と活性汚泥をエアレーションによって混合後、活性汚泥を沈殿分離し、上澄水を処理水として流出させる方法
ヒューム管	高速回転による大きな遠心力を利用してコンクリートを締め固めた鉄筋コンクリート管。遠心力鉄筋コンクリート管のこと
分流式（下水道）	汚水と雨水とを別々の管路系統で集め、汚水のみを処理場に導き処理する下水道。現在は分流式が主流
閉鎖性水域	湖沼や内湾のように水の滞留時間が比較的長く、水の交換が行われにくい水域をいう。水理特性上汚濁物が蓄積しやすいため水質汚濁が進行しやすく、また、その回復が容易ではない、富栄養化現象が生じる可能性があるという特徴がある。
返送汚泥	活性汚泥法において、反応タンク内の活性汚泥量を一定の水準に維持するために、最終沈殿池から引抜いて反応タンクに返送し、循環利用する活性汚泥のこと

は行～続き

用語	解説
返流水	汚泥の各処理過程で生じる濃縮分離液などを水処理施設に戻した排水
包括的民間委託	性能発注に基づく民間委託。具体的には、契約に含める施設の維持管理に係る業務対象範囲を運転管理からユーティリティー管理や補修まで含めた性能発注レベルの設定、複数年契約の導入を含んでいる。
(浄化槽の)法定検査	浄化槽法第 11 条第 1 項に規定された検査。浄化槽の保守点検・清掃が適正で浄化槽の機能を発揮しているか否かを確認するものであり、毎年 1 回受検する必要がある。
(浄化槽の)保守点検	浄化槽法第 10 条第 1 項に規定された点検。浄化槽の機能維持のため、点検や機械調整、修理、消毒剤の補充等を行うものであり、毎年 3 回以上実施する必要がある。

ま行

用語	解説
前処理	一次処理の前に行う下水処理で、ばっ(曝)気、pH調整、砂分除去、油分除去、スクリーニング細断などを含む。
マスタープラン	全体の基本となる計画または設計
マンホールトイレ	下水道管路にあるマンホールの上に簡易な便座やパネルを設け、災害時において迅速にトイレ機能を確保するもの
MAP法	リン回収を目的とする高度処理方式の一つ
水循環	水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水、地下水として河川の流域を中心に循環すること
水処理施設	汚水を清澄な処理水と汚濁成分に分離する施設
未利用エネルギー	都市活動で排出される各種廃熱等で利用されていないエネルギー。例えば発電所の温排水等。下水道では、下水処理水の熱のヒートポンプ利用、あるいは消化ガス発電などが未利用エネルギーの活用例となる。
メタン発酵	汚泥がメタン生成細菌の作用によってメタンと二酸化炭素になる過程

や行

用語	解説
有収水量	料金の徴収対象となる水量
溶融施設	汚泥の固形物中の無機質を 1,300~1,500℃程度の温度で溶液化し、冷却後、ガラス状のスラグとして取り出す施設
揚砂設備	沈砂池底部に堆積した沈砂を集め、揚砂ポンプで排出する施設。揚砂した沈砂と集砂水は沈砂分離機で分離し、沈砂はホッパーに貯留し、集砂水はポンプ井に戻し集砂水として循環利用する。設備は沈砂池底部の集砂トラフと集砂装置、集砂ポンプ、揚砂ポンプ、沈砂分離機、循環水スクリーン等で構成される。
余剰汚泥	活性汚泥法において、反応タンク内の活性汚泥濃度を適切に維持するために引抜く余分の汚泥のこと。

ら行

用語	解説
ライフサイクルコスト	施設の建設から廃棄までの間に必要となる建設費、維持管理費、撤去・処分費等の合計
流域下水道	2市町村以上の区域の下水を排除し処理する下水道で、都道府県が管理するもの
流域別下水道整備総合計画	水質環境基準の類型指定がなされている水域について、下水道法に基づき策定される下水道整備に関する総合的な基本計画で流総計画とも呼ばれ、都道府県が策定する。
流出解析モデル	地表面流出から管内水理までを一連で、時系列の水理解析が可能であることが特徴で、不定流解析を行うことにより、従来手法（合理式、修正 RRL 法等）では的確に表現できなかった水理現象を表現することが可能である（複雑な水路網、背水現象、圧力流れ、時系列の溢水状況、ポンプ、ゲート等）。
リン回収	下水または下水汚泥中からリン化合物を取り出すこと
劣化予想曲線	機能診断の結果などを基に、施設の経過年数に伴う劣化状況の予測を表す曲線。これをもとに改築・更新を実施すべき時期を設定する。
ろ過洗浄ブロワ	急速ろ過施設の設備の一つであり、ろ材に付着した浮遊物を除去・洗浄するための気泡（空気洗浄）を発生させる装置
ロードヒーティング	車道や歩道の舗装内に、電熱線類や温水を循環させたパイプ等を埋設し、路面の積雪や凍結を防止するシステム